

# ふるさとのお話

西仲町の

## 子育て稲荷



△狐が伏見稲荷からもってきたという金のはし



中央町3丁目(西仲町)の大運寺に子育て稲荷があります。  
 ここに祭られているのは、京都の伏見稲荷の使いの狐で、伏見稲荷からもってきたという金のはしが今でもあります。  
 病気の子供をもった親が、このお稲荷さんへお参りするとたちまち病気が治ると言い伝えられています。

### 伏見稲荷の使いの狐

昔、大運寺のお坊さんの枕もとへ毎晩のようにあらわれる一匹の狐がありました。そして「和尚さま起きてください。私をお稲荷さんに祭ってください」と言います。和尚さんはどこから、どういうわけできたのか聞きました。狐は「私は京都の伏見稲荷の使いです。『東国に病がはやり、子供が育たなくて困っているところがあるので、お前はそこへ行って子供を守ってやりなさい』と言われてきました」と答えました。和尚さんは狐は人間をだますのが上手なので、伏見稲荷の使いだという証拠があるのか尋ねると、狐は金のはしを見せました。

さつそく伏見稲荷へ問い合わせると、たしかに金のはしが1せん

なくなっているということでした。そこで和尚さんは、境内へほこらをつくり、子育て稲荷大明神として祭りしました。その後、吉原では、はやり病で子供が死ななくなったそうです。

### 夜泣きにご利益



大運寺の住職富田生久さん(38歳)は、「年寄りが孫を連れてくるようです。県内各地から参拝者があり、子供が夜泣きをしたときにお参りするとすぐ治ると言われています。お参りしているところを人に見られてはいけないと言われていたようで、気がつくとも揚げが上げられています」と語ってくれました。

### 地名の由来

ま かと  
間 門



間門地区は、旧吉永村を構成した一つで、根方街道から2里ほど山手の集落です。ここに夷城跡といわれる所があって、日本武尊の伝説が伝えられており、古くから開かれた村であると思われます。

間門の間は安んずるとか、くつろぐこと、門は出入り口の意味があるので、間門とは静かな入口の村ということになります。

# 富士のあゆみ ④



### 源平の戦い

△宇東川の呼子坂の碑

源氏と平家の戦いにゆかりのある名前が、市内にはいくつか残されています。

1180年、伊豆の蛭ヶ小島に流されていた源頼朝は、源氏再興平清盛打倒を念願して兵を挙げました。一度は石橋山でつまづいたものの、すぐに勢力を盛り返し、富士川をはさんで平家軍と対しました。この富士川の合戦は、平家軍が水鳥の羽音を源氏の夜襲と間違えて敗走しましたが、このとき源氏の軍勢20万の主力は、今泉原田地区を中心に陣をしました。宇東川には軍兵を呼子の笛で集めたところと伝えられる呼子坂があります。

市内には、ほかにも平家越、和田川、源太坂など源平の戦いに関係する名前があります。

(文は、郷土史家鈴木富男氏の著書を参考にしています)

### こちら編集室

5面で紹介した小山さな江さん。くどいようですが2年連続市長賞とは大したもの。字が美しいのは立派な技術。我が子こそ字がうまくなるよう、今からしつけようかな…。